山梨県立あけぼの支援学校

令和6年度　研究のまとめ

kebono

研究テーマ

「肢体不自由特別支援学校における
よりよい教科指導のあり方
～国語・算数数学の指導を通して～」

キーワード

肢体不自由特別支援学校の教育課程

肢体不自由のある児童生徒の教科指導

国語・算数数学のよりよい指導

教科や自立活動の関連

指導内容の整理

これまでの研究

〇令和元年～４年

内容：自立活動について（PDCA)

〇令和５年～

内容：肢体不自由特別支援学校の教育課程・
教科指導について

〇令和５年度研究テーマ

「肢体不自由特別支援学校における重複障害児童生徒の
教科指導について
～育成すべき資質能力に応じた指導を目指して～」

※知的障害代替の生活、社会、理科の指導

年間の研究計画

日　程	内　容	備　考
5/8（水）　第1回全体研究会	今年度の研究について ※残り時間、まだ教科が決まっていないグループは教科の決定。 必要に応じて学びラボの視聴　→新しく来た先生は事前にアカウントを取得	※終了後、グループで教科を検討
①　5/9	・学習指導要領解説　各教科等編 P11～１５　肢体不自由の部分 P20～３９　知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科 ・グループごと教科の最終決定 ・特総研の学びラボを視聴（必要に応じて）	グループ研
②　5/30	学習指導要領の国語又は算数・数学の部分について読み込み、クラスの児童生徒に該当する部分や大切な部分について話し合う。	グループ研
③　6/5	学習指導要領を読み、事例対象児童生徒がどの段階で、どのような内容で指導ができるのかを確認	グループ研
④　7/4	学習指導要領を読み、事例対象児童生徒がどの段階で、どのような内容で指導ができるのかを確認	グループ研
⑤　7/18	学習指導要領を読み、事例対象児童生徒がどの段階で、どのような内容で指導ができるのかを確認。　※終わっているグループは事例研究にとりかかっても良い。	グループ研究
7/29（月）第2回全体研究会 【講師招聘研修会】	講師：福岡教育大学　教授　一木薫先生	オンライン研修
⑥　8/29	事例研究	グループ研
⑦　9/26	事例研究	グループ研
⑧　10/24 情報交換会	国語、算数数学、単一障害に分かれて情報交換	3グループで実施
相互授業参観ウィーク	※今年度は50周年記念式典があったため実施せず	
⑨　12/12	事例研究	グループ研
⑩　1/17	研究のまとめ・今後の方向性検討	グループ研
⑪　1/24	研究のまとめ・今後の方向性検討	グループ研
2/14（金）　第3回全体研究会	今年度のまとめ・事例報告（中）	指導主事招聘
2/20（木）　第4回全体研究会	事例報告（小・高）	
3/13（木）　第5回全体研究会	来年度の方向性について	

令和6年度の1年の流れ

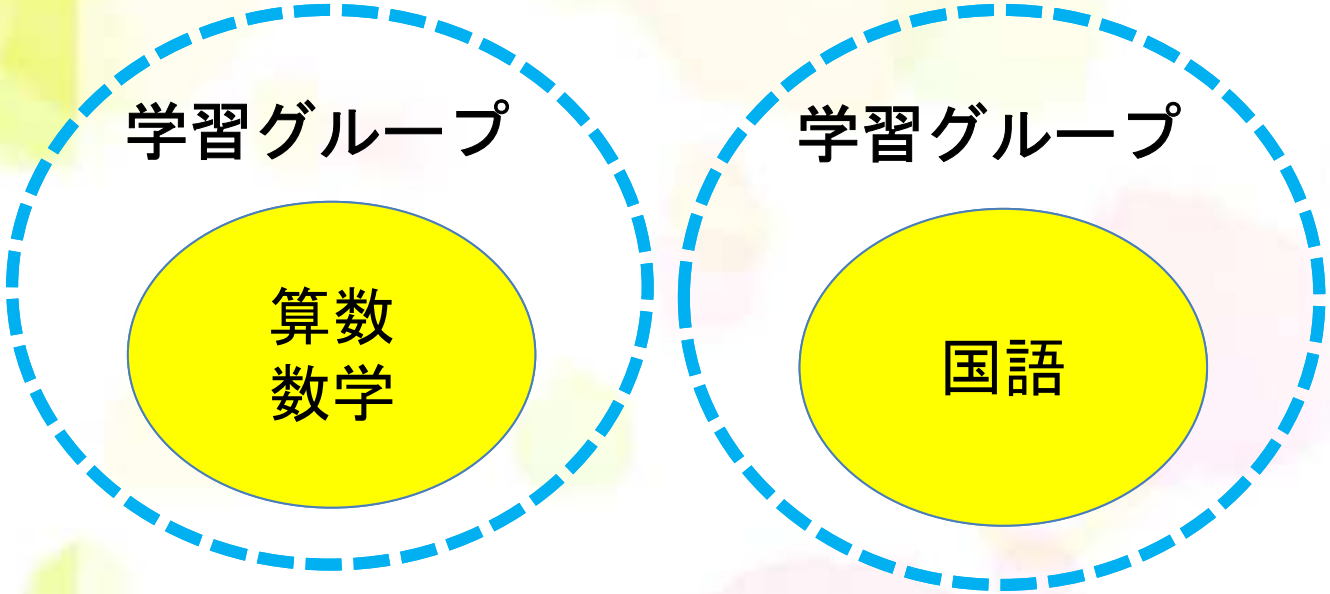
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	第1回 全体研 令和6年度の方向性、テーマ決定		**第2回 全体研** 講師招聘研修会							**全体研** 研究のまとめ 来年度に向けて	**全体研** 次年度の提案
	グループ研 肢体不自由特別支援学校の教育課程や教科指導について確認。	**グループ研・教科ごと** グループに分かれ、国語・算数数学の指導内容や段階等について確認。 1人1事例で事例研究。 教科ごとの情報交換会							**グループ研** 指導内容の整理 研究のまとめ		

※今年度は50周年記念式典があった関係で、相互授業参観ウィークの設定はなし。

研究の実際

今年度の研究グループ分け

◎学習グループごとに教科を統一して実施



メリット

・実態や年齢が近い。
・学習グループごとなので個々の実態がわかりやすく話し合いをしやすい。
・話し合いの時間が確保しやすい。
・同じ教科なので整理しやすい。

デメリット

・個々の希望の教科で研究できない場合がある。

※自立活動主体の児童生徒については、国語・算数数学につながっていく内容で自立活動の事例を考える。

令和6年度の研究の進め方

5月（研究日①～②）

☆グループ研究

・研究で取り組む教科の決定

・学習指導要領、文献、特別支援教育総合研究所の動画などを参考に肢体不自由特別支援学校の教育課程や教科指導について確認。

（必要に応じて、全国的な動向、他校・他県の教育課程や教科指導の様子等）

令和6年度の研究の流れ

6月～12月（研究日③～⑨）

☆グループ研究

・基本的に、一人1事例。

・知的障害代替の教育課程については学習指導要領の国語または算数数学の指導内容の確認。対象児童生徒の段階や、指導が可能な内容等について確認。

・準ずる・下学年は対象児童生徒の課題を踏まえ、学習指導要領の中でどの指導を特に大切にするか等を検討　③④⑤

・実践事例研究　8月～12月　⑥⑦⑨

指導内容の検討で使用した様式
（国語　6月～研究日③④⑤）

研究の様式（6，7月）

部	グループ	国語

児童生徒の段階	学年	氏名	該当する段階

	内容の構成	段階 ※自立主体は自立と記載	具体的な指導の内容
知識及び技能	（1）言葉の特徴や使い方に関する事項		
	（2）情報の扱い方に関する事項 ※小学部3段階から		
	（3）我が国の言語文化に関する事項		

思考力・判断力・表	A　聞くこと・話すこと		
	B　書くこと		
	C　読		

該当児童生徒が
取り組めると思われる
内容を記載

学習指導要領の内容の構成

該当児童生徒の段階を学習指導要領と照らし合わせて記載
小学部1～3段階
中学部1～2段階
高等部1～2段階

指導内容の検討で使用した様式
（算数･数学、準ずる･下学年　6，7月研究日③④⑤）

研究の様式（6，７月）

部	グループ	算数・数学

児童生徒の段階	学年	氏名	該当する段階

内容の構成	段階 ※自立主体は自立と記	具体的な指導の内容
A 数量の基礎		
A　数と計算 (小学部１段階はB)		
B　図形 (小学部１段階はC)		
C　測定 (小学部１段階はD)		
C　変化と関係		
D　データの活用		

※数学的活動に該当する内容は、指導内容の最後に”(数学的活動)”と記載してください。

研究の様式(6,7月)

部	グループ	教科：

学年	氏名	指導する学年（準ずるは現在の学年、下学年は指導に該当する学年を記載）

1　児童生徒の現在の課題（研究で扱う教科で意識したい点を含めて）
2　課題を解決するために特に大切にしたい指導内容
3　他教科と連携したい内容

準ずる･下学年の教育課程は
児童生徒の現在の課題、
課題を解決するために特に
大切にしたい指導内容、
他教科と連携したい内容
について記載

講師招聘研修会（7月29日）

講師：福岡教育大学　教授　一木薫先生

テーマ「自体不自由の子どもの教育課程と
教科の授業設定」

※Teamsでのオンライン研修

実践事例研究で使用した様式
（国語･8月～　研究日⑥⑦⑨）

国　　語			取り組んだ期間 令和　年　月　日～　月　日	
学部	学年	氏名	教育課程	該当する段階（総合的に）
	年			

知的障害代替
または
自立活動主体

小学部１，２，３段階
中学部１，２段階
高等部１，２段階

※段階をまたいでいるとき「小学部１～２段階」など記でもよい
※自立主体は自立と記載

取り組むのは学習可能なもののみでよい。
自立主体の場合は、学習している中で教科につながっていくと思われる部分を記載

小学部１，２，３段階
中学部１，２段階
高等部１，２段階
自立主体は自立と記載
段階をまたいでも良い

学習指導要領等を参考にしながら、事例対象児童生徒が学習できる内容について検討し、実際に学習する内容について記載。

目標の数に応じてセルを減らしたり増やしたりすることは可
・知的代替：（知）（思）は構成で分かれているのでそのままでよいが、（主）の場合は（主）と記載。
・自立主体は６区分のどれに該当するか記載
（身）（コ）（環）など

必要な部分のみ簡潔に記載すればよい。

指導後入力する
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：努力を要する

	内容の構成	段階 ※自立主体は自立と記載	具体的な指導の内容	目標	評価（記述）	評価 （ABC）
知識及び技能	（1）言葉の特徴や使い方に関する事項			（知）		
				（知）		
	（2）情報の扱い方に関する事項 ※小学部3段階から			（知）		
				（知）		
	（3）我が国の言語文化に関する事項			（知）		
				（知）		

具体的な指導内容から考えられる目標を記載

評価はA,B,C
必要がある部分は記述で評価

６，７月に作成した様式から、
８～１２月までに取り組む内容を
ピックアップして記載

実践事例研究で使用した様式
（国語･8月～　研究日⑥⑦⑨　）

思考力・判断力・表現力等	A　聞くこと・話すこと			（思）		
				（思）		
	B　書くこと			（思）		
				（思）		
	C　読むこと			（思）		
				（思）		

指導後の反省・今後に向けて

指導後の反省と今後に向けて必要なことを記載

実践事例研究で使用した様式
（算数･数学　8月～　研究日⑥⑦⑨）

数　　学	取り組んだ期間 令和　年　月　日～　月　日

知的障害代替
または
自立活動主体

小学部１，２，３段階
中学部１，２段階
高等部１，２段階

※段階をまたいでいるよ
「小学部１～２段階」な
記でもよい
※自立主体は自立と記載

学部	学年	氏名	教育課程	該当する段階（総合的に）
	年			

取り組むのは、学習可能なもののみでよい。
自立主体の場合は、学習している中で教科につながっていくと思われる部分を記載

小学部１，２，３段階
中学部１，２段階
高等部１，２段階
自立主体は自立と記載
段階をまたいでも良い

学習指導要領等を参考にしながら、事例対象児童生徒が学習できる内容について検討し、実際に学習する内容について記載。

目標の数に応じてセルを減らしたり増やしたりすることは可
・知的代替は（知）（思）（主）を記載
・自立主体は６区分のどれに該当するか記載
（身）（コ）（環）など

必要な部分のみ簡潔に記載すればよい。

指導後入力する
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：努力を要する

内容の構成	段階 ※自立主体は自立と記載	具体的な指導の内容	目標	評価（記述）	評価 （ABC）
A 数量の基礎					
A　数と計算 (小学部は１段階はB)					
B　図形 (小学部１段階はC)					

実践事例研究で使用した様式
（算数･数学　8月～　研究日⑥⑦⑨）

C　測定 （小学部１段階はD）					
C　変化と関係					
D　データの活用					

※数学的活動に該当する内容は、指導内容の最後に”(数学的活動)”と記載してください。

指導後の反省・今後に向けて

実践事例研究で使用した様式
（準ずる･下学年　8月～　研究日⑥⑦⑨）

教科：

取り組んだ日
令和　年　月　日

学部	学年	氏名	教育課程
	年		

準ずるまたは下学年

指導後入力する

A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：努力を要する

教科書の単元名を記入

単元の指導内容について記載。

必要な部分のみ簡潔に記載すればよい。

単元	具体的な指導の内容	目標	評価（記述）	評価（ABC）

・単元や
（知）（
・本来の
必要だと
・目標の
すること

指導後の反省・今後に向けて

☆情報交換会（研究日⑧10月24日）

国語、算数・数学、準ずる・下学年に分かれて情報交換を実施

【研究に取り組んでみて良かったこと】

【課題に感じたこと】

【他グループへの情報提供】

国語　情報交換会

【研究で取り組んでみて良かったこと】

〇目標などを具体的に考えることができ、評価がしやすかった。

〇指導要領の項目を基準としながら目標を立てていくことは整理ができてよい。

〇自立活動主体（一部教科）で学習をしてきた児童も今回の書式を使いながら整理することで教科として学習を積み重ねていける「伸びしろ」があると感じた。

〇教師が指導要領を読むことで指導する指針を再確認するよい機会となった。

国語　情報交換会

【課題に感じたこと】

●見え方や動きに制限のある児童のため「できた」という評価の見極めが難しい。また、小学部1段階に当てはまらない児童のどのような反応を「できた」と判断するか。

●スモールステップでの目標の立て方が難しい。 いつも同じような目標内容になる。

●教師の読み取りを多角的に見ていくことの難しさ。

●教師側の裁量による部分（同じ活動や動作でも教師の捉え方次第で（知）にも（思）にもなってしまう）。

●実生活でどのように活かしていくのかが難しい。

●自立主体の教育課程の生徒。要素をピックアップしていくと様式に記入することはできた（気切していると「話す」は難しい）。「書く」でも教師と一緒にペンをもつ。苦しいなと感じた。

算数・数学　情報交換会

【研究で取り組んでみて良かったこと】

〇研究で取り組むことで共通理解できてよい。

〇研究の機会があったのでいろいろ話し合えてよかった。いろいろな意見をもらえて指導の改善ができてよかった。

〇クラスで話をしながら学習を進めることができた。わからないことについてはリーダーや主事に聞きながらできた。

〇視線入力について取り組んでいたので、そのソフトの内容から、小学部1段階について、算数・数学の目標に応じたものを学習指導要領に照らし合わせなら検討してまとめることができた。これから生活でどう般化していくか。今後の指導に役立つのではないかと思う。

算数・数学　情報交換会

【課題に感じたこと】

●クラス内に自立主体に近い子から数の学習をしている子までいて実態差が大きい。

●経験がなくわからないことだらけ。対象児童はこだわりが強くなかなか学習に取り組めなかった。ようやく関係性が取れ実態がわかり、学習に取り組めるようになった。

●基本的な理解について、学習障害があって難しい。わかっているように見えるがアンバランスな面が多い。数量の基礎と生活に生かすものに分けて取り組んでいる。

●数のイメージについて、視覚・目の使い方の問題か、認知的な問題かの判断の難しさ。

●本人の興味が限定的。教科指導としては取り掛かりが難しい。

●教師の担当教科の関係で同じクラスでも授業を見られないことが多い。担当とのやり取りも含めて話し合いが難しい。

●できそうでできない。アンバランスさあり。数の認知については、操作はできるが数量として理解できていないのではないか。日常生活の中で数の概念を育てたいがなかなか難しい。日常生活でいかせることを考えたい。

●3観点での評価の難しさを感じる。

●教師の主観で教育課程が変わってしまう怖さがある。

●国語と算数の境目。重度の子はその区切りが難しい。

算数・数学　情報交換会

【他グループへの情報提供】

・視線入力装置での学習について、学習指導要領を確認しながら目標に応じたソフトを整理したので、周知できるとよい。（高⑦グループ）

準ずる・下学年　情報交換会

【研究で取り組んでみて良かったこと】

〇嫌なことがあるとすぐやめてしまうことがあったが、最近では苦手なことでも自ら歩み寄って折り合いをつけることができるようになってきている。

〇書くスピードは意識づけられている。

〇今までやってきた学習が整理はされていないが、記憶として残っていることが事例研究を通して分かった。

　例）「=」の意味など理解できている様子から。

単一障害　情報交換会

【課題に感じたこと】

●数学の中だけでなく、普段の生活の中でも“逆算をして考えること”がむずかしい。

●ゆっくり考えることができない。

●アウトラインを把握することが下手。(全体把握、時間配分など)

●経験の不足から概念の習得がむずかしい部分もある。

●生活の中での活動とのつながりをもつことがまだ難しい。

●読む・聞く・話す・書くという内容はそれができるまでにつけなくてはならない力がある。

例）本をたくさん読んだからといって国語力がつくわけではない。
言葉を理解して、整理して伝える力が身についているからこそ
“話すこと”ができる。

●肢体不自由児の教科学習は、教科であってもその基本になるものは自立活動であるため、教科の中に自立活動を入れていかないといけない。

●見えないものを想像する力がむずかしい。

●応用力、推理力が弱い。

情報交換会で共通していたこと

【研究で取り組んできて良かったこと】

・複数の視点で指導について確認できてよかった。

・目標や評価の基準が明確化した。

【課題に感じたこと】

・認知力以外に経験不足、見え方などさまざまな要因がある。

・国語・算数数学、自立活動の区別が難しかった。（特に重度の児童生徒）

令和6年度の研究の流れ

１月～２月（研究日⑩～⑪）

☆グループ研究・全体研究

・指導内容の整理と研究のまとめ

グループ研究のまとめから

指導内容の整理

一人１事例で取り組んだことにより、多くの指導内容のアイデアがあげられた。すべての段階を網羅してはいないが、それを校内で集約することで今後の指導の参考として活用できる。

☆指導内容表を整理したものを校内サーバーで公開し活用していく。

重度重複障害の児童生徒について
（教育課程を明確に分けにくい児童生徒）

〇一段階の目標をそのまま使うのが難しいが、複数の教師で意見交換して目標設定や評価ができた。

〇学習指導要領を読み込み、生徒に合う部分を少しでも見つけて指導していく。

〇縦への広がりは難しいが、横への広がりを意識していく。

〇自己選択の場面を意識して設定していく。

〇健康状態をよい状態に保つことを大前提にしながら取り組む。

重度重複障害の児童生徒について
（教育課程を明確に分けにくい児童生徒）

課題

●目標設定の難しさ。同じような目標になってしまう。

●個に応じた教育課程や指導時間の検討が必要である。

●教科と自立活動のバランスを考えていく必要がある。

●できたという評価の見極めの難しさがある。

●スモールステップの難しさがある。

●体調で学習時間の確保が難しい。

●国語、算数・数学に分けにくい。

以前から知的障害代替の教育課程で学習してきた児童生徒について

〇複数の教員で生徒の段階について確認し、目標設定がしっかりできた。

〇知・思・主の3観点での目標を複数の教師で設定したことで教師の主観ではなく、しっかり基準をもって指導できた。

〇3観点に分けての評価に難しさは感じるが、目標や基準が明確になったことで評価しやすくなった。

〇複数の教員で児童生徒の実態について確認し、学習指導要領と照らし合わせながら指導内容を検討したことで、指導内容の幅が広がった。

〇何ができていて何ができないのかを、複数の教師で確認して実態把握できた。

〇教科としての目標や内容を達成するうえで、その支えとしての自立活動がある。教科と自立活動の関連付けが大切。

〇どのようにして日常生活に生かせるようにしていくか。電卓、タブレットなどの補助具等の活用の工夫。

以前から知的障害代替の教育課程で学習してきた児童生徒について

課題

●他教科への発展についても記載できる欄があったらよかった。

●積み重ねの難しさがあった。

準ずる・下学年の児童生徒

〇少人数なので丁寧な指導ができた。

●肢体不自由があることでの経験の少なさから理解が難しい部分がある。経験に偏りがある。

●集団で学びあう経験が少なく、集団の中で自然に身に付ける言語力や一般的な考え、常識を客観的に体験することが難しい。

●教科と自立活動のつながりとバランス。

研究グループごとの工夫

☆桐が丘特別支援学校の取り組みを参考にしながらスモールステップで指導内容を精査できた。

☆視線入力装置のアプリの内容を学習指導要領の目標と照らし合わせて分類し、教科的な観点で評価ができた。

☆学習指導要領とSスケールを参考にしながら目標設定をしたことで、数学的観点から評価をし、目標の段階を上げることができた。

☆担任以外が授業に入ることが多く、目標や指導内容を意識した授業の実施が難しかった。

→目標や内容が記載された様式をファイリングして教室に置き、授業に入る教員が確認するようにした。様子を記入することで評価にも生かせる。

まとめ

☆多忙化の中、研究の時間を有効に活用することで、学習指導要領をしっかりと読み込み、児童生徒の正しい段階を複数の教員で確認できた。

☆実態をしっかりと把握したことで、教科としての考え方をもって、どのような指導内容があり、できるのか、どのような目標がたてられるのかを具体的に考えることができた。

☆指導内容や目標が具体的になったことで、難しさはあるものの、評価の基準が明確になった。

☆小学部１段階に該当するかどうかという実態の児童生徒の内容の検討、目標設定、評価は難しい部分が多い。

☆準ずる・下学年の教育課程の児童生徒は、認知面だけでなく、経験不足からくる難しさも抱えている。少人数制の学習だからこそ丁寧に指導できる反面、周囲から学ぶ機会がないというデメリットもある。さまざまな難しさについて、自立活動や他教科と連携しながらかかわっていく必要がある。

今後の課題

・昨年度と今年度は教科指導についての研究を行い、複数の教員で児童生徒の実態把握をし、段階の確認、指導内容の検討を行った。この複数の教員で検討するという取り組みを、次年度以降研究の時間でなくても習慣化して取り組めるかどうか。

・教育課程や時間数が本当に児童生徒にあっているのかどうかを検討する。

・授業時間内の教科と自立活動のバランスを確認する。

・他教科と連携する。（自立活動も含む）

・自立活動主体の教育課程であれば、取り組める教科はないかを検討する。